

# 設楽発掘通信

滝瀬遺跡の地元説明会を開催します

No.41  
平成30年  
10月号

秋も深まってきました。七月から始めた八橋地区の滝瀬遺跡（設楽町八橋字タキセ）の発掘調査も順調に進んでいます。平成二十八年度の調査区（十六A区）に隣接する調査区（十八C区）では縄文時代早期や縄文時代後期を中心とする多くの遺構と遺物も検出され、調査の主体はいよいよ山麓の丘陵斜面の調査区（十八B区と十八A区）に移ってきました（写真1）。山麓の丘陵斜面では、これまでの河岸段丘上とは異なった遺跡の興味深い様子が見られるようです。

つきましては、十一月十日（土）午前十一時より、地元説明会を開催します。詳細は下記をご覧ください。スタッフ一同、皆様のご来場をお待ちしています。

（愛知県埋蔵文化財センター 早野浩二）



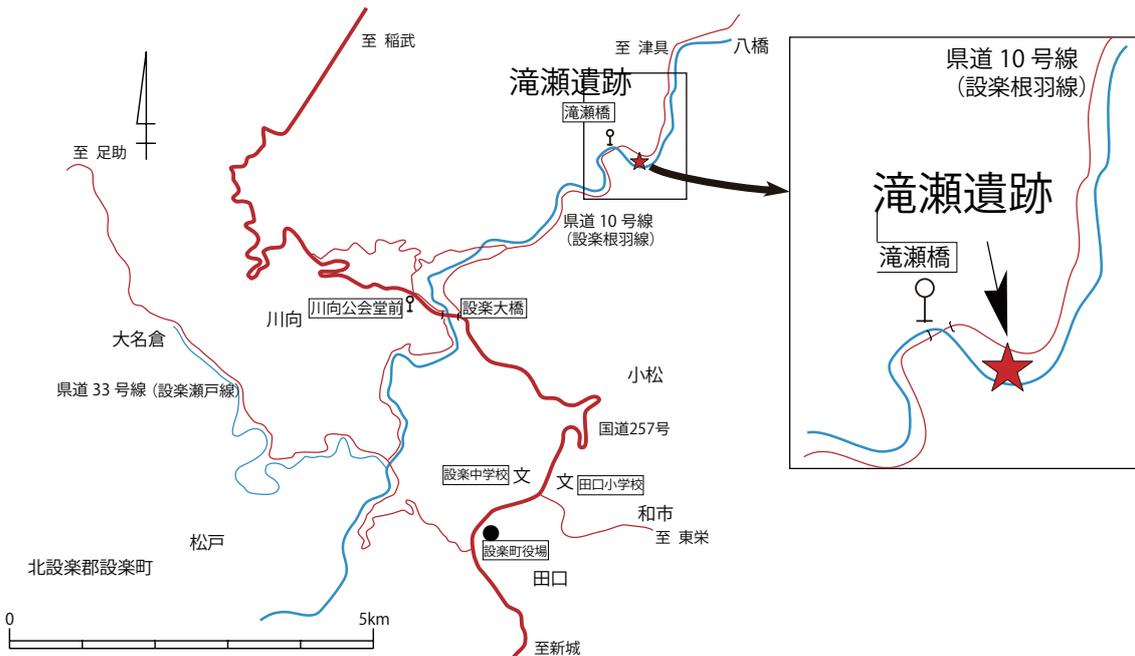
写真1 滝瀬遺跡の発掘調査風景

## 滝瀬遺跡地元説明会 会場のご案内

11月10日（土）午前11時より、遺跡現地で開催予定です。

お車でご来場の方は、現地に駐車場を用意しております。当日、係のご案内いたします。

\*開催の詳細・お問い合わせは、愛知県埋蔵文化財センター調査課（電話 0567-67-4163）、川添携帯（080-1571-4989）、あるいはホームページ（<http://www.maibun.com>）をご覧ください。





## 滝瀬遺跡出土有溝石錘について

二頁のように、滝瀬遺跡の調査では、縄文時代後期前葉（約四千年前）の遺構群の調査を行いました。この後期前葉の遺構群および遺物包含層が展開するのは、県道十号線より南側の、境川に接した低位の緩斜面上です。ここでは、そこで見つかった有溝石錘について紹介します。

1は、長さ四・二、幅一・八、厚さ〇・九センチで、扁平な水滴のような形をしています。全体を研磨して整えてから、長軸の方向に何回も刻んで、幅太い溝が施されています。溝を刻んだ痕跡はよく残されており、断面で見るときれいなV字形になっています。重さは八グラムと軽く、使用石材は凝灰岩です。この石材の色調は明るい黄褐色ですが、一部赤くなっている部分があります。火を受けて変色したものと考えられます。

2は、長さ三・六、幅二・二、厚さ二・六センチで、楕円形の球状をしています。長軸方向に二条、短軸方向に一条の溝が施されています。図1のように、この面をみても、十字に溝が交わるようになっていきます。これも溝を擦った痕がよく

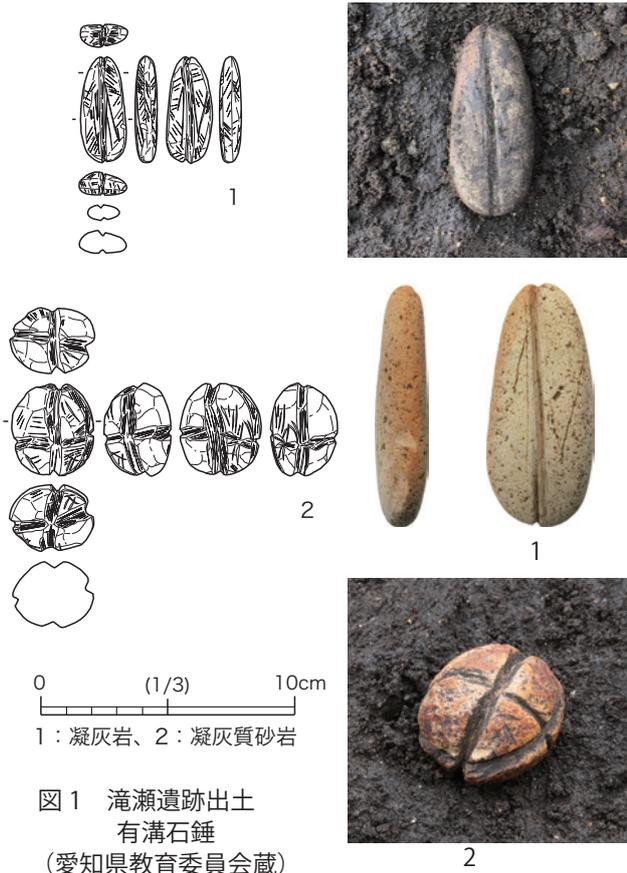


図1 滝瀬遺跡出土有溝石錘  
(愛知県教育委員会蔵)

残されており、断面で見るときれいなV字形になっています。重さは二・六・四グラムで、使用石材は凝灰質砂岩です。この石材の色調も本来は灰白色ですが、全体に赤みを帯びていることが分かります。石材の表面風化かもしれませんが、火を受けて変色したものかもしれません。

設楽町域では、大名倉遺跡、西地・東地遺跡、マサノ沢遺跡、笹平遺跡、杉平遺跡などで、有溝石錘が出土しています。礫の両端を打ち欠いて作られた打欠石錘とは異なり、多くは溝を施す前に表面を研磨で整えられており、場合によっては全体の形から整えるものもあります。また、使用石材も、打欠石錘では、花こう岩、片麻岩、砂岩などであるのに対して、有溝石錘では、塩基性岩や凝灰岩、凝灰質砂岩などが多いです。これらの石材は、祭祀の道具である、石棒・石刀類や岩偶・岩版類に使用される石材と同じであり、色調が青色であったり、白色に近い色調であったりします。

大名倉遺跡や笹平遺跡では、作りかけの有溝石錘が出土しています。また、笹平遺跡やマサノ沢遺跡では、有溝石錘よりも線刻が多い、岩偶・岩版類がまとまって出土しています。有溝石錘も設楽地区を代表する遺物であるといえ、今後さまざまな方面からの分析・検討が待たれることとなります。

(愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁)

# 設楽発掘通信 No.41 平成30年10月号

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567)67-4161【管理課】 4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

Twitter [https://twitter.com/aichi\\_maibun](https://twitter.com/aichi_maibun)

印刷・協力

安西工業株式会社